

巻 頭 言

マテリアル事業における 商品開発の取り組み―独自性の追求

取締役 マテリアル事業部長 柴 功安



20 世紀後半に始まった情報技術の革新は、グローバル化の進展と同時にこれまでの企業系列や枠組み、商品の国境を一気に消滅させ、企業に対して環境適応による成長か衰退かの選択を突きつけています。一方で、デフレの進行に歯止めがかからず、各企業は景気循環的な要因と構造的な要因とのダブルパンチの中で、新しい事業モデルの構築に生き残りをかけています。21 世紀は企業、商品の淘汰が進み、新しい社会システムへの脱皮が起きる時代だと言われています。そこで企業存立の鍵を握っているのは「独自性」です。

当社は創業以来、機械工具、部品（軸受、油圧）事業を中心に社会の発展に貢献すべく「独自の技術によるものづくり」を指向して新しい技術・商品を創出してまいりました。

その中で、マテリアル事業部門は「材料から製品までの一貫メーカー」の特長に応えるべく工具・軸受部門に対して社内の材料供給基地としての役割を果たしています。工具材料については、ハイス工具トップメーカーとして市場において工具製品が常に競争優位となるよう、相応する独自材料を開発、供給しています。例えばドリル用プレハードン材、エンドミル用汎用材、ブローチ用高耐磨材、ドライカット用高性能材等があります。軸受材料についても、トランスミッション等のコンタミ環境下での高寿命軸受材料等で独自性を発揮しています。

さらに近年、社外の需要家への拡販にも注力し外販比率は 80%に達しています。外販向けとしては IT、家電、自動車、産業機械等の部品用途に素形材、ニアネットシェイプ材での適用を推進しています。例えば精密異形引抜技術を活用したエアコン用ベン材やパワステ用ベン材あるいは極細線材のミクロンハードを適用したプリンター用ピン、半導体製造用パンチ材などを商品化し高いシェアを獲得しています。今後は、社内にコーティング部門を擁するつよみを発揮して、材料・熱処理・コーティングのシナジーを活かした独自性のある商品を開発し、他社との差別化をはかって行く考えであります。

さて先般、政府の総合科学技術会議が、情報技術（IT）、環境、生命科学（バイオ）、ナノテクノロジーの重点 4 分野について研究開発と実用化の取り組みを強化することを発表しました。当社におきましても、現在こうした市場・技術の流れに関連する素形材・部材の開発に取り組んでいます。例えば IT 分野では、半導体製造に関する高性能ピン・パンチ、また環境関連分野では、クリーンディーゼル化に向けた燃料噴射装置用高剛性部材、さらにバイオでは医療処置用特殊極細線材等の高機能化をはかる方向で開発を推進しています。

今後、材料技術がますます進歩し、分子・原子レベルの微構造制御による材料開発のウエイトが高まることが予想されます。そして汎用材から機能材への展開がさらに促進され、材料の高度化と個性化が進むものと思われれます。こうした面での基礎研究や次世代のニーズ把握については、お客様との共同研究や大学等の研究機関の活用、同業者との連携によりスピードを上げて進めてまいりたいと考えています。

創業者が 1928 年にハクソーの生産から当社の事業をスタートしたとき、すでに将来の材料事業への進出を企図して社名を「不二越鋼材工業」にしたと聞いています。その材料へのこだわり、並々ならぬ情熱に対して、70 有余年を経た今我々は深く思いを致し、その DNA を受け継ぐものとして独自性を追求した商品開発を進め、材料事業のさらなる発展に邁進してまいる所存であります。